

再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム  
令和2年度 CIREn 研究支援事業審査委員会 開催結果

日 時：令和2年6月4日（木）13:00～14:30

場 所：グランデはがくれ2階「シンフォニーホールA」

出席者：（委員）

白壁委員、横尾委員、佐藤委員、大野委員、野間委員、田中委員、白石委員  
（事務局）

佐賀大学工学部

横尾事務長、椋島係長、川副氏

佐賀県新エネルギー産業課

山津参事、香田係長、江頭副主査

1 開会

2 委員紹介

3 役員選出

佐藤委員から、県新エネルギー産業課長の大野委員を委員長に推薦する提案があり、承認された。

4 令和2年度研究支援事業の審査及び候補事業の選定

- ・事務局から、資料3及び4に基づき、令和2年度研究支援事業の概要及び審査要領について説明がなされた。
- ・また、審査の進め方について、以下2つの理由から、申請事業の実施に対する留意点や気付き等を申請者へフィードバックする目的を主に据えて進める旨提案があり、承認された。

（理由1）書面審査における各事業の審査項目ごとの平均点が、「普通である」場合の評点をいずれも上回っていたこと

（理由2）予算1,200万円に対し、総申請額が約930万円と、予算の枠内だったこと

- ・申請NO.1から各事業について、意見や気付き等を出し合い、合議審査が行われた結果、申請のあった10件の事業すべてについて、研究支援事業の候補として選定された。

<以下、各事業に対し委員から出された意見等>

（1）遠隔監視研究分科会

- 具体的な県内企業が参画していることから、期待できる案件ではないか。
- 昨年度の研究分科会では、参加企業の関心が思った以上に高く、自社製品へ遠隔監視システムを搭載したいといったニーズもあったと聞いている。
- “遠隔監視”のテーマ自体は全国でもよく取り組まれているが、海外へのODA展開を見据えた取り組みであることを評価した。
- 今年度の実施計画にある“2件の遠隔監視ニーズ”を具体的に知りたかった。

- 遠隔監視システムは適用が難しいところ。様々なデータを取得し、適用のハードルを越えられれば、モデルケース化も期待できるのではないか。
- 太陽光発電研究分科会や建築等ビッグデータ...研究分科会と親和性の高いテーマであると思われるため、分科会間の連携も検討してほしい。

#### (2) 未利用熱利用空調システム研究分科会

- 福祉施設、体育館、農業用ビニールハウスの3つのテーマの優先順位が気になった。
- ターゲットが広い印象。ターゲットを絞って優先順位をつけながら進めると、事業が進みやすいのではないか。
- テーマが多岐にわたっているように見えるが、研究分科会の参加企業の中で、テーマごとの役割分担ができており、地に足がついた申請と認識している。
- 窯業分野でも熱利用に興味あり。(現在は排熱を捨てているため。)ぜひ成果を積極的に公表してほしい。

#### (3) 洋上風力発電研究分科会

- 今年度は洋上風力発電に係る関連部品の供給に可能性のある企業等を訪問し、産業化の受け皿を探すとも聞いている。
- 浮体構造物の強度計算等のノウハウを持っている先生も参画していることから、企業とうまく連携して取り組んでほしい。

#### (4) 太陽光発電研究分科会

- 卒FITモジュールの処理は全国的な課題のため、ニーズは全国にある。具体的なイメージがあり、全国に先駆けて地域で循環できるエコシステムを開発することに期待。
- シリコンはいいが、その他の部分も劣化している。パッと持ってきたものを計測した結果のみで耐久性の判断をしていいものかが疑問。

#### (5) 海洋温度差発電関連技術分科会

- システムが大掛かりなイメージもあるが、小型化して様々な分野(窯業分野等)へ展開されることを期待。
- 発電コスト概算ツールはぜひ開発してほしい。(ツールを使った結果が早く見たい。)

#### (6) 電気化学研究分科会

- 基礎研究に近い内容の印象。基礎的な研究の先に県内企業を絡めた具体的な案件が出てくることを期待。
- このようなものがないと次の種が出てこない。大事なことだと思う。
- 光触媒を用いて基礎的な素材が開発できれば、様々な分野への応用が期待される。(例えば新型コロナウイルスの分解等)
- 特にテーマ3は、成果が上がれば県内企業への還元が期待できる。

(7) 無線電力伝送研究分科会

- 例えば電力会社が電線の監視等にドローンを活用される場合に、ドローンの充電に当該技術が応用できないかと期待している。
- 他の類似テーマの研究との差別化がポイント。用途を早く絞ることが必要。
- 当該テーマは、県内企業はなかなかついて行きづらいのではないかと。(県内では最終製品を作っている企業が少ないことがネック。) 県外に本店があり、支店や工場が県内にある企業等が、具体的に関わられる可能性があるのではないかと。

(8) レアメタル回収研究分科会

- 県内企業も多数参加しており、期待されているテーマだとは思いますが、技術面(何をを使うか)をどう進めていかれるのかに注目したい。事業化(ペイ)できるかが課題ではないかと。
- 県内に化学系の企業がほとんどないことが課題。研究分科会にて用途開発したものを県内企業が先駆けて導入することで、マーケットを広げていくことを期待したい。
- 自己資金(校費)も投入して取り組まれることに好感が持てる。

(9) ものづくり研究分科会

- 県内は金属加工が主要な分野のひとつ。大学が持つシーズと組み合わせると分科会として取り組まれることはありがたい。
- 県内企業のニーズはかなりあると思うので、活発な分科会活動により活動を広げてほしい。
- 大学の実習工場を活用して企業の人材育成も担う取組は良い。佐賀で育った人材が、佐賀の企業で活躍することが地域の振興に繋がる。
- 地域産業支援センター、県工業技術センターと連携し、知恵を出し合いながら進められれば良いと思う。

(10) 建築等ビッグデータ利活用研究分科会

- 未利用熱利用空調システム研究分科会分科会と遠隔監視研究分科会と連携して取り組んでほしい。
- 類似の研究テーマは多いため、佐賀ならではの差別化を図って進めてほしい。
- 取得する対象データの検討や処理コストの低減化がポイント。
- 1年目の実測調査の要件定義等に注目したい。

(その他の意見)

- ベンチャー企業の成長段階の分類でいう、“シード期”の事業として評価している。シードの先の、アーリー、ミドル、レイターの各フェーズの事業支援を行った実績を踏まえて、先の展開まで見据えたサポートをしていきたい。
- 企業と研究者とのマッチングが課題の一つだが、銀行としても積極的に取り組んでいきたい。
- 企業と研究者との接点が生まれるこのような研究分科会の取組はありがたい。具体的な良い案件が生まれる可能性もあり、期待している。

- 大学の研究者と連携すれば、当該事業を活用して大学の知見を含めた研究開発ができるという利点を企業の方にももっと認知いただき、活用して欲しい。

5 その他

6 閉会